

皆さん、こんにちは。まず福原会長、友好的なお言葉を頂きありがとうございました。イタリアの国家に対しあれだけの言葉を頂きとても感謝しております。しかしそれだけではありません。ラクイラ大地震に対して日本の政府、機関、企業、各個人が我々に示した哀悼の意に対して感謝申し上げます。また今回の第21回日伊ビジネスグループミーティングに出席することが出来たことを光栄に思います。フィンメカニカのザッパ会長、資生堂の福原会長にそれぞれお礼を申し上げたいと思います。また、イタリア文化会館がこの素晴らしいホールを提供してくれたことに対してお礼を申し上げます。何年か前にこのビジネスグループが発足したときにはこのホールの名前が与えられているアニェッリ氏の働きによるものでした。

最近ローマと東京を中心とした日本とイタリアの協調がスムーズに進んでおります。それだけではありません。企業家だけでなく例えば日本におけるイタリア2007春、あるいは今年の日本におけるイタリア2009秋のような一連のイベントを開催することが出来ました。イタリアにおいても日本においても民間会社あるいは公共機関が両国の深い友好関係を示すことになっております。この日伊ビジネスグループは1989年に設立されましたが、その時から協調と対話のための大切な集団となっております。特に景気が悪い最近では有効的な手段となっております。そういった理由から今日、このミーティングに参加することになりました。また両国の機関、企業の代表が示されていることが非常に大事です。イタリアと日本の経済は輸出に向けた経済であって先端技術を駆使しておりますし、また製品の輸出が非常に拡大されています。これは両国の特徴である中小企業のおかげです。過去には自由貿易の障害、障壁が色々な形でありましたが、ドーハラウンドの開催によって両国はここで満足の行く仕事ができるようになりました。またテロに対する共通の仕事においてはイタリアと日本は協力することが出来ます。また日伊ビジネスグループでは非常に大切な話し合いがなされてきました。特にビジネス環境、例えば関税障壁やエネルギーの問題など仕事が円滑に進むように活動がなされました。またそれぞれの国が経験してきた自然災害の対策も話し合われてきました。

またイタリアと日本の産業的貿易的パートナーシップを作り上げることが必要ですが、EUも忘れてはなりません。東京都EUとの関係がどんどん深まっていくことを望んでおります。これは有意義なことだけではなく、消費者と労働者、技術者にとって有益になります。我々の国がノウハウとテクノロジーを守る必要があります。メイドインジャパンもメイドインイタリーもどの分野においてもトップのものとして知られています。最近ラクイラで行われたG8サミットで2010年までにドーハラウンドが完成することが望まれているわけですが、しかしそれだけではありません。我々がここで仕事として例えば金融システムのルールの検討など、まだまだ解決に至っていないものを考えなければなりません。こういった意味において、今度ピッツバークでG20の会合が行われますが、特に金融の問題において日本とイタリアはここでも手を組んで仕事を進めることを望んでいます。今年の終わりにコペンハーゲンで行われる会議において環境問題に対して、日本の政府が積極的に取り組むことがとても重要だと思えます。それぞれの国の生産システムが世界レベルで利害関係

を持っていますので、この協力によってより良い成果を得ることが出来ることとなります。これはいわゆるグローバルな意味でお互いに協力しながら我々が貢献する能力があることを示すこととなります。最後になりますが、日本が積極的な役割を果たしているのですが、アジアにおける融合と経済協力の拡大ですが、このような仕事に対してはイタリアは非常に興味を持っております。もちろんこれはアジアという地域全体だけではなく、他の国のエリアにも貢献できるようになりますので、大きな文化が接触したりぶつかったりしましたが、これからは協力しながら先に進まなければなりません。イタリアと日本はこの道をずっと歩むことが出来ると確信していますし、この世界の中で進むことが出来ると確信しています。ありがとうございました。